

第3回審議会でのご意見を集約

資料1

各委員からのご意見

1 子どもの安全の視点

- ① 就学前期から若者世代が対象
- ② ネット犯罪、闇バイト、災害、違法薬物、性被害・性加害、自殺、オーバードーズなどから守る
- ③ 家庭環境や虐待が背景の場合ある

2 居場所関係

- ① 居場所、非認知能力の向上の取組は充実しているが、いきいきと生活したり、思いを吐き出せる場所が必要
- ② 地域学習センター、あやセンターぐるぐるなど自由に過ごせる居場所の充実を
- ③ 大学生などのロールモデルを配置

3 就学前教育

- ① 非認知能力を向上させるための適切な環境づくりが必要。公立の保育園で教育プログラムをやるのが現実的

4 外国ルーツ

- ① 母国語で話せる環境を整備すべき
- ② 外国ルーツの高校生が気軽に利用できる居場所や支援施設が少ない
- ③ 保護者に対する支援は必要。外国の方同士でつながるサポートを
- ④ 人とのつながりを築くことで信頼が生まれる

5 青年期の保護者への支援

- ① 青年期の保護者への支援はやや手薄のように見える

6 既存の支援にはまらない人

- ① 親にだけきつく当たる子に悩む親がいる
- ② ターゲットアプローチとユニバーサルアプローチとの間にある親子を支援すべき

7 寄り添い・伴走支援

- ① 子どもを支えるキーマンとして、大学生、チューター、家族以外に頼れる人、思いを話せる人などの存在が重要
- ② (母子手帳の電子化を推進する意見がある一方、)孤立している人にはママ友やCW、保健師などによるローテクでの情報伝達が必要
- ③ PTAは子どものためにあるべき。子どものやりたいことを叶えるPTAであれば参加者も増える。「ともに」との整合を
- ④ 学校のいじめアンケートは後々呼び出されたりして、正直にかけなかった。学校は近いはずなのに遠い一方で、SNSは遠いはずなのに近い印象
- ⑤ 支援する側も制度を知らないと支援が難しい。各種制度に関する情報の集約にはAIを使うとよい

1～5は施策、あるいは施策の中の取組として整理

6、7は視点として整理

柱立て施策案の体系図(案)

